



地域創造科より

水産部会ふれあい水槽に参加して

地域創造科水産コース

二年 小川 春瑠



私は、産フェアの役割分担で「ふれあい水槽」の生徒責任者になりました。ふれあい水槽で、多くの来場者の皆さんにおいでいただき、楽しんでもらうことができ、とても嬉しかったです。展示してある魚のことも能登の海について、事前学習していましたが、いざ本番になると不安でいっぱいでした。

産フェア一日目の最初に谷本知事さんがおいでしてくれました。知事さんの「何という魚なの?」「どこで採取したの?」などの質問に、同級生の寺山君がしっかりと答えてくれました。寺山君、なかなかやるなと思いました。次から次へと見学のお客さんが来ました。魚を手にとつて、名前を覚えてあげたり、魚に直接触つてもらったり、お客さんも、自分達も楽しむことが出来ました。カニの水槽では、喧嘩したのか、手足が無くなっているものもありました。水槽の魚が苦しそうになると、少しでも元気になるよう、水面に浮いた泡をとったりしました。フグが応えてくれて元気になりました。魚たちもストレスがいつぱいあるのに、無理

して元気そうに振舞ってくれたようだったので、自分も頑張ろうと思えました。

二日目の朝、多くの魚が死に、フグは気絶しそう、ナマコもぐったり伸びていました。すぐに、新しい海水に入れ替え、フグや他の魚を励ました。二日目が終わるとき、魚と別れるのが、とてもつらかったです。海に返すことができなくて悔しかったです。最終的に、魚は、希望するお客さんに無料配布しました。魚をもらってくれた人達にも半分感謝です。仲良くなったフグやヒトデは廃棄されました。

水産部会作品展示を体験して

地域創造科水産コース

二年 松浦 知生



日本全国には、専門的なことを学べる高校が沢山あります。工業、農業、商業、福祉、看護などです。自分は能登高校に入学するまで水産の専門コースがあることを知りませんでした。自分のように、水産コースがあることを知らないまま、高校生活を終えて行く高校生が大勢いると思います。大人の方でも、水産の学校があることを知らない人が多くいると思います。そのような人のために、水産の良いところをアピールでき

家庭科からデス!!

十二月八日(木)と十五日(木)の両日、三年生を対象とした「食育講座・健康教育」が行われました。

八日は地域創造科の十一名、十五日は普通科の二十一名が参加しました。両日とも、最初に保健師の福田さんと食生活改善推進委員の森谷さんから「食」と「健康」についてお話を伺いました。若い世代のやせ願望の実態を踏まえ、健康な体をつくるための生活習慣病の予防について専門的な立場から情報を提供していただき、生徒は四月からの一人暮らしに思いをはせていたようです。次に、食生活改善推進委員の皆さんのご指導のもと、郷土料理である「べこもち」海藻の粕汁や「いしり」を使った炊き込みご飯、「鮭の南蛮漬け」「ほうれん草とんじんのごま和え」をつくりました。どの料理も塩分控えめで、彩りもよく、生徒も喜んで取り組んでいました。

【参加生徒の感想】

・健康講話はわかりやすかった。自分も体形が気になるけれど、ちょうど良い体重をキープして、いい大人の女になりたいです。

・自分も卒業したら一人暮らしなので、いろいろな気をつけようと思いました。

・粕汁が一番おいしかったです。ゆずが良かったので、これからはおつゆに入りたい。

クイティブ人材育成事業校外研修(1年生 春蘭の里見学)

12月6日(火)に1年生の生徒が春蘭の里研修センター「コブシ」を見学しました。今回の校外研修は、ふるさとの地域産業を学び、創造的な視点でふるさとへの地域貢献を測る能力を身につけることを目的とした研修です。生徒は春蘭の里の理念や能登町の歴史について説明を受けた後、実際に能登町の伝統的な家屋を訪れ、古くからある能登町の生活を体験しました。自分達の文化を見直し、その価値を見いだすよい機会となりました。



一年団より

テニス部より

十一月十日 団体戦
 男子 **優勝 (5連覇)**
 女子 **優勝 (7年ぶり)**
 十一月十一日・十二日 個人戦
 男子 優勝 米澤・奥野組
 第3位 大町・東組
 女子 準優勝 糸井・大澤組
 ベスト8 山本・下島組
 濱田・宮村組



11月10日～11日
 団体 **優勝 (3連覇)**
 個人 **優勝 山口真琴 (全国高等学校選抜大会出場権獲得)**
 4位 野村拓真 5位 吉田優佑

アーチエリー部より

選手感想
 キャプテン 齊藤駿

・新人大会での団体優勝はチーム全員の目標でした。大会3連覇を達成し、先輩たちが繋いだバトンも無事に守ることが出来ました。新チームとしての第一歩が好スタートになって良かったです。

個人優勝 山口真琴
 ・個人戦で優勝できてすごく嬉しかったです。全国選抜大会の出場も決りましたので、今まで以上に練習し、入賞できるように頑張りたい。



十一月十日から十二日にかけて小松ドームで石川県高等学校ソフトテニス新人大会が行われました。手もかじかむような寒さの中で選手たちは試合に懸命に闘いました。男子は、**団体戦で優勝し、5連覇**となりました。女子は、決勝で前年度優勝の金沢学院高校に最後まで決して諦めないプレーをし、**見事7年ぶりの優勝**となりました。さらに、**能登高校として初のアベック優勝**になりました。また、個人戦は男子、米澤・奥野組が優勝、糸井・大澤組、大町・東組が第三位でした。女子は山本・下島組が惜しくも決勝で敗れ準優勝となりました。

福祉コースより

十一月十八日、地域創造科福祉コース2・3年生を対象に、視覚障害者の理解に関する講義が行われました。講師として鍼灸のお仕事をされている灰谷さんと盲導犬のエースくんが学校にきてくださいました。生徒達は、バスで灰谷さんとエースくんを見かけたことがあり、そのことがきっかけで今回の企画が成立しました。日常生活の話や盲導犬に関する話、盲導犬体験、手引き支援等を通して視覚障害者に対する関心もより一層深まったように感じました。

その後、生徒達は灰谷さんに点字を使って感謝の気持ちを手紙として送りました。先日その返事をくださった、**生徒達は点字の解説に真剣に取り組んでいました。**今回を機会に、つながりの輪が広がると嬉しいです。

社会福祉とは何かを自分に関心かけた百分間！



管理職エッセイ

校長 大窪 直二

今号もプロ野球の話で恐縮です。今年、日本一になった日本ハムファイターズの栗山英樹監督は、私の大学野球部の2年後輩で私が四年生の時の二年生でした。彼がエースピッチャーで私がキャッチャーで、いわゆるバッテリーを組んでいたということになります。ですから今でも「おい、クリ、「はい、何でしょうかオオクボさん」の関係です。「おう、また校長の自慢話か。」とS間先生のささやきが聞こえてきそうですが…

丁度、昨今の今頃、東京で大学野球部のOB会があり、私も出席しました。そこに、栗山監督も来ていたので、お酒を酌み交わしながら大谷選手の手の二刀流についてや中田選手の扱い方についてなどいろいろな話をする事ができました。その話の中で、私が、次のシーズンから一軍の投手コーチに吉井理人を再び招聘した理由を尋ねました。実は吉井投手コーチは、日本ハムの一軍の投手コーチでしたが栗山監督が日本ハムの監督に就任した一年目のシーズンオフに球団から解雇されます。

その理由は栗山監督との投手起用法における意見の違いによる確執があったと報道されていた。一年目のオフに自分との意見の違いにより首にしたコーチを五年目のシーズンを迎えるに当たりなぜ再び投手コーチに就任させたのか私には疑問でした。栗山監督の答えは「真に強いチーム、強い組織を作るために、あえて自分にはつきり物が言える人間、自分にとって耳障りなことを言う人間をコーチに招聘しました。」

* 1月の主な行事予定 *

- 10日 始業式 服装・容儀検査 鳳雛塾
- 14日 土曜スクール センター試験、1・2年進研記述模試(~15日)
- 20日 英検
- 21日 PTA『親子そば打ち体験』
- 22日 そば打ち交流会 (福祉コース2・3年)
簿記実務検定 鳳雛塾
- 24日 租税教室(2年)
- 25日 のとも～るスマイルプロジェクト
- 29日 情報処理検定 危険物取扱者試験 鳳雛塾
- 30日 3年考査発表
- 31日 生徒研究発表(午後、全校生徒)



自分の周囲が「イエスマン」ばかりではチームは衰退します。」でした。今年、日本ハムは、首位ソフトバンクに最大11.5ゲーム差をつけられながら、逆転でペナントレースを制し、日本シリーズでは広島との激戦の末、広島を倒し日本一になりました。栗山監督は、来年の連覇のために、大谷の起用法を含め、更にチームを改革すると宣言しています。

栗山監督の言葉は、強い組織を率いるためのリーダーとしての心得を説くばかりでなく、生徒諸君の人間関係づくりにとっても大変意味深いものではないでしょうか。好きなもの同士の気軽な仲良し「こぼかりでは何もうまれない。時には自分にとって耳障りなことを言ってくれる人を大切にしてこそ人として成長できるのです。

最後に栗山監督に感謝して、「クリ、大谷のサイン入りユニフォームくれ！」